



///技術課題

音声変換に有用かつ入力話者に依らない汎用的な音声表現を音声データのみから獲得することは課題となっていました。

///研究目標

コミュニケーションにおける物理的・能力的・心理的な状態に起因するさまざまな形の制約を取り除き、あらゆる人が快適にコミュニケーションできる環境の実現をめざしています。

---要素技術

- 新規に考案した抑揚や声質における話者ごとの違いを考慮した深層生成モデルを用いた音声変換に有用な音声表現の獲得
- 波形合成器の改善にも取り組むことで高速化・低消費電力化も同時に実現

---市中技術差異点

- 話者変動を考慮した技術による高音質化
- 35msの論理遅延という低遅延な音声変換を実現

---適用ビジネス

ライブ配信にてある話者の音声を別の話者の音声に変換したり、web会議やコールセンターにて相手の声を聞き取りやすい声に変換することが可能【顧客体験価値向上】